

スジアラ資源診断とゴマサバ漁況予測手法について 学会発表しました

平成30年11月22日 水産技術開発センター

平成30年11月16～18日に東京大学大気海洋研究所で開催された2018年度水産海洋学会研究発表大会において、『奄美海域産スジアラの資源診断』と題して宍道研究専門員が、『薩南海域の旋網におけるゴマサバ漁況予測手法の検討』と題して福元研究員が、それぞれ発表しました。

奄美海域のスジアラ資源は、直近5カ年では微増傾向で、加入は安定しており、現状を超えるような漁獲圧を掛けるべきではないと考えられました。

ゴマサバ漁況予測手法の検討では、四半期ごとに得られる様々なデータが次の四半期の漁況予測に役立つ可能性が示唆されました。

質疑応答では、今後の研究の参考となる多数の有益な意見が得られました。

本県海域にとってさらに有益な情報が提供できるよう、今後も解析を深めていく予定です。

